



と能率との變遷状態は一致しないので二つの異つた曲線になつてゐる。即ち生絲量は昭和三十四年頃迄は増加率〇・〇二五〇年の程度で直線的に増して来たものが昭和五年を境として現在迄の増加は極めて著しく増加率〇・三七〇と云ふ物凄

又生絲量と能率の傾向が一致しないのは其の當時に於ける改良目標が多少の差異のあつたであらうとも考へられるが其の外製絲技術の改良、繭取引方法の變遷等も擧げられやう。即ち表を見るに能率の大飛躍をなした頃には着線分業製絲が行はれ始め生絲量の飛躍的增加をした頃には繭の検定が施行されてゐるのであつて此等のことが原料繭の改良に間接的影響をあたへたことも否定することは出来ない。

以上の様な実績から將來に於ける原料繭の動向を考へると生絲量に於ける業者の長年の目標である生繭一〇〇貫にて生絲百斤と云ふ繭も出来やうし又一日線生繭三〇〇貫と云ふ結果も得られるであらう。此等の数字は何れも全國平均に於て、ことも大して遠い將來でないことが豫想される。加ふるに繭検定の普及によつて繭質を形成するものは生絲量、繭絲量のみてなく繭絲織度、小類等も重要な因子であることに目醒めて來れば総合的に見た繭質も向更に改良され従つて生産される生絲の品質も向上するであらうことは必然である。

現下非常時局下に於て國産繭の増産が痛切に叫ばれ又昨年来市場に出現した合成纖維に對抗して永遠なる蠶絲業の發展を期さんには手段は只一つ優良なる生絲を安價に生産するより外はない。然し製絲工業能率の増加の基礎をなすものが原料繭であることを想へば斯業が此の方面の研究改良に期待する所實に大であると云はなればならない。(五一三三)

### 針塚先生轉宅

豫て御郷里に居を移されんと承つてお針塚先生の新宅が愈々完成を見たので先づ先生一家は三十年住み馴れた上田を去られることとなつた。五月四日午前十時三十分上田驛を御發ちになつたが流石に先生の御人格と御交際した御見送りは断えず當地に見えられた。然し先生は御面接も出来るし、又訓えを受けることが出来るのである。



### 前校長さんの轉宅

御郷里の新住宅が一年餘りかゝつて漸く完成を見るに至つたので愈々轉宅の時が迫つて來たのである。三十年も住んだ上田を引揚げるのだから荷物の移轉が容易な事ではない。早くから整理に心掛けたらもう使用しなうもない物から次々荷物の飾戸棚や還歴記念の壽像などは客間の飾戸棚や還歴記念の壽像などはいつの間にか見えなくなつた。扇額や刀掛けが依然として居た頃は時々訪問する人達には氣が附かなかつた事であらう。其内に駿尾氏の濱名湖の油繪や胡瑛の額面も見えなくなつた。之等は金山町の御宅以來見慣れた物である。其れからは訪れる度に客間が次第々々に簡單化して來たのであつた。

或時ちやうど松岡、笠井兩君が可なり好い機嫌に酔つて居た晩であつた。三合も入る九谷焼の大徳利が卓上にまだ立てられてあつた。これは松尾町の頃以來正月毎に見たなじみの物であつて、酒に縁の深かつた故人、舊職員を次々に想ひ出させるものである。菊模様のある薩摩焼の茶碗も共に依然として舊のまゝである。此等思ひ出多い徳利、茶碗ともやがて訣別しなければならぬ時が來るのである。

暖い風と共に杏が咲き桃櫻が引續いて笑ひ、上田も彌々陽春の氣分になつた頃

から御郷里より親戚の方々が次々に見えられたので、御轉宅の日が彌々近づいたなと感づいた。御郷里の日は彌々近づいた様に奥様に御目にかゝる妻から愈々五月の初め頃に轉宅なさるさうですと聞いた。だが暫くしてはまだ誰からも送別會の話が聞かない事が何となしに心の奥で落附きが得られない様に感じさせられたのである。

井上校長の満洲行で袂別會を早めて四月廿六日に開かれる事になった。新舊職員殆ど全部に附近の卒業生が加はり、水入らずの親しい會となつたのである。珍しきは曾て宴會には殆ど出た事のない大瀧君が顔を出した事であつて、之も又一抹の淋しさをそそぐものであつた。翌晩は諸曲同人の羽衣會が開かれ、幾年か振りに佐藤、遠藤兩君の聲を聞き、御夫婦も昔の思ひを新にした事であらう。

袂別會が済むと愈々全部の荷物造りが始まつた。卯はつさき(御前荷)、藤江さん(都丸夫人)、浦枝さん(野口夫人)達が取出す荷物を次々に學校若手の傭人達が荷造りして離れは座敷も廊下も忽ちに荷物の山である。五月一日大形トラクタ一臺が早朝勢よく出發した。此日も引續いて荷造である。愈々今晩必要の夜具と食器以外の物は全部荷造りして仕舞つたのである。其の光景は恰も大掃除の様であつた。後光景は恰も大掃除の様であつた。後光景は恰も大掃除の様であつた。

二日早朝残りの荷造りをし二臺のトラクタは荷物を山と積み上げた。テリヤは箱に入れられて勝手道具の間に積み込まれて泣き出したので好物の菓子をやつたが食はうともしない。テリヤの悲嘆には苛むる自動車が爆音勇ましく出發したのである。

荷物全部送り出した後の荒廢は引續められる様な淋しい光景である。部屋と連ぶ部屋、軒下も倉も物置も全く空虚の散亂であり、井上、阿形、遠藤三夫人や初めお松さん(瀧澤夫人)、恒ちゃん(卒業生倉澤)の母さん、愚妻達のエプロン除く残つた傭人達總動員で内外全部の掃除である。荒廢の趾は忽ち一變して清

楚の邸宅に還つたのである。御家族の方々は身仕度を改められ、手荷物と共に愈々最後の引拂ひである。門を出て見送られた最後の眼、見送る人達の挨拶に伏せし手傳ひの人達が去り、家主に引渡すまで御空虛の中に端座して見れば物無くして獨り居るが如く、人居らずしてなほ其の聲を聞くが如く、時の經つのを知らなかつたのである。

針塚先生は豫て御郷里に御建築中の新装が成つたので、陽春の佳日をトしいよ上田と袂別せらるゝ時が來た。市民は揚げて先生との離別を惜み、手段を盡して慰留の力めたが、先生の御意志は厳として堅く、遂に曲げることが出来なかつた。先生はよくこんなことを述べられた。

「僕は郷土に家を歸つて芋を掘り墓を守ると。」  
今回の御歸郷は、此の年來の御希望を其の儘に移さるゝことになつたわけである。然し、先生日常の御生活を顧ると、今日あること必ずしも偶然ではない。先生は、土を熱愛せられ、どんな多忙の間でも、土を開きながら、どんな出で、半裸のまゝ、炎天下に平然と鍬を大地に打ち込んで居らるゝお姿をよく人は見かける所である。

又先生は、自然に向つて限り無き憧憬を寄せられた。高山の跋涉、山野の散步は常に御多忙でありながら好んでなされた所であり、又生きたし生けるものは生命と雖も嘗て之を疎かに取扱はれべき逸話は澤山あるが今は言はない。たゞ、如斯く土と自然を熱愛せられたと言へば即ち是の先生の宗教であり、哲學である。又先生の大人格の據つて來る源泉でもあるのである。

今回の御歸郷は、先生の土と自然に對する愛の大理想を御郷里に於て具現せらるるためであつて、先生の主觀的な立場に樹てば吾等は必ずしも悲しむにあたりない。然しながら、上田の地に居住せられて三十年、吾等と結ばれて實に三十年、此の三十年の長年月を慈愛の父としてかして來た吾等であつて見れば、吾等の主觀は之を惜まらずして何をか惜しむべきお訣れにあつた切々断難き哀別離愁を感ずるのであるが、先生が今回口に

言はるゝまゝを信じ、決して上田を去られるのでは無く、少くとも半分は在田なされること云ふことを前提に、テンポラリーに御送りすることをなつたのである。先生は其の意味で四角張つた送別會等全部お断はりになつた。千曲會でも公式の御送りしなかつた。たゞ、母校の職員が一時の別れを惜むために心ばかりの送別會を開いた折、在田の同窓生を之に加えていただけである。

御出發の時、群馬と南信には支部長へ、北信の同窓には全部へ御通知して置いた。其の日、五月四日午前十時三十分、上田驛頭は御見送りの官民で文字通り立錫の餘地も無い程であつた。後で驛員の言ふ所によると、應召は別として未曾有の御見送りであつたと言ふ。爪もたないとは此の事を言ふのであらう。國防婦人會(御奥様は國防婦人會の支部長であられた)と本校學生は構内廣場に整列した。先生は學生に向つて「時勢を知つて學生の本分を盡せ」と例の名調子で簡潔適切な御訓辭があつた。獨り學生のみならず聴くものをして自ら矜を正さしめ、思はずホロリとさせられた。

漸て汽車は上田驛を滑り出す。惜別の言葉が切れた一瞬、送られる人送る人、上田を圍む大自然も、憂ひを含み聲をのみ、静寂の間に黙送を續けて居る。烏帽子よ！太郎よ！千曲よ！靈あらば來りて此の聖君との袂れを泣け！

袂れ兼ねて、先生方の奥様又は町の人等數人小諸驛迄見送られた。此所でも赤袂の同窓生數名が驛迄御見送り申し上げたが、輕井澤からボツ／＼雨となつて車窓を叩いたが、さきどりの中に咲き残る山櫻の薄紅が一層美しく見えて一行を慰めてくれた。高崎の乗り換えは二つ、然し此所にも同窓が迎へてくれたので何かと便利であつた。新前橋から群馬支會の瀧川驛に着いたのが二時半頃である。生憎雨は稍強く降つて來た。驛には村長を始め村民が村旗を先頭に構内を埋め盡す程に澤山出迎へられた。此所では上田とは全く反對に、此の平和の聖者を迎ふために歡喜溢るゝが如きおももちが感じられた。

先生のお宅は此の瀧川驛から約十五分位お思はれた。上田驛から母校への距離よりも稍近い。瀧川、前橋を繋ぐ堂々たる國道で、路面の良い平坦な道を東すれば忽ち右手に先生の御宅を望み見る事が出来る。又汽車の中から瀧川驛手前約二、三分の所を利根川向きに新しい板塀と母屋の二階が指呼の間に望見し得られる。先生のお宅は御生家の眞前に建てら

れ、御生家の裏には鬱蒼たる樹木に取り  
圍まれた鎮守のお社がある。一行は村旗に  
鎮守の御社に参拝した。先生の悪童時  
代(の)の悪戯の指箋の所かと思ふと一木  
一石と雖も大變になつた心地がした。先  
生は莊重な言葉で、感謝の意と將來  
の交誼を乞はれ、且つ私の歸つて來た  
のは亡父の訓に従つて墓を守るためだ  
と陳べられた。

先生は御生家の裏に土と自然を愛する  
の結果ばかりでは無かつた。大道の本  
を全ふせらるゝためであつた。此の情  
景に浸つて、此のお言葉をきいた利那、  
人生の最終の目的が奈邊にあるかの啓示  
を得て自ら頭の下がるものがあつた。

また外廓には蔵も物置も出来て居た。  
あの澤山の荷物をすつかり呑んで了つた  
のだから、相當に大きいやうに想像され  
る。二階から下を見下ると、庭の真中  
に泉水があつた。其の傍らに非常に大き  
な石がある。之は先生の知から出たと云  
ふ事であるが、之こそ先生悪童時代の思  
ひ出に切つても切れぬものであると云ふ  
五干貫近くもあると思はれた。植込みも  
ポツ／＼出来て居た。此の完成は容易な  
事ではなかつたらう。一通り説明を承つ  
て後、下の應接へ始めてのお客さんと  
つて茶を戴き漫談に小半時も費した。其  
の時、之では随分おかりでしやうな!  
と云つては具体的にも、僕のトーチカ心  
臓もつと具体的に單的に切り出すこと  
が出来なかつた。

私共の第一に氣に入つた事は、位置が  
非常に景勝の地であることである。利根  
の清流を眼下に見下るし、赤城の連山  
の清流を明の平地である。第二に、家が如  
何にも温かそうである。第三に、清浄であ  
る事である。第三に、滋川駅から非常に  
近い。附近に温泉もある(便利である事  
である)。

御近所には澤山御親戚も御親戚もある  
し、旁々非常な安心した心地でお宅を辭去  
することが出来た。こんなお宅に二、三  
日御厄介になつても悪くないな!と思つ  
て見た。こう考へると、お客さんと思つ  
て見た。先生の御上田に於ける御住所は、千  
曲會館であるから大体は學校で御勤勞が  
わかる管である。時には長野に、時には  
別所にお出でのこともあるから何れにし  
ても學校へ御照會下さい。

## (刊新最) 編郎太金川石

# 集獻文學絲蠶本日

錢三十三料送 錢十八円六價定 頁〇〇〇一組横號六・入函裝洋判六四

本書は一六七六年から一九三七年に至る我が國蠶絲學關係の諸々の文獻を網羅したるものとして「桑」「蠶」の二部に分れて「蠶」に部類をわけ、無慮二萬に及ぶ文獻の著者名、研究題目、發表年、發表號數等を記載し、懇切な索引と相俟つて一目瞭然と編纂したるもので過去四世紀に跨るわが國蠶絲學の全貌を鳥瞰するに足ると共に、斯界の研究に無限の光明を照らす唯一の資料として特筆すべき勞作である。著者による先づの文獻目録は絶版既に久しく、斯界の翹望切なるに對して爾來本書の完成に心血を注がれたるもので、その努力と功は本書の上に高く評價されずにはかれないであらう。切に大方の御清鑑を待つ。

埼玉縣蠶業試驗場長 野中幸兵衛著  
**養蠶**  
實用蠶業全書(五)  
價一・二〇 送料一五

埼玉縣蠶業試驗場長 岡部康之著  
**桑樹栽培**  
實用蠶業全書(六)  
價一・二〇 送料一五

明石弘 著	近蠶絲業發達史	送料 五・三〇
遠藤保太郎 著	桑樹實驗法	送料 一・二五
加納 銳 著	蠶種製造實務要覽	送料 一・二五
高瀬 軍治 著	箱飼養蠶給桑育の箱飼	送料 一・六〇
福田 惠治 著	實用簡易活桑育蠶法	送料 一・五〇
金崎 眞英 著	上簇改良論と實際	送料 一・五〇
佐藤 利一 著	蠶の敗血症並に一般軟化病の性質及び豫防法	送料 三・三〇
荻原 清治 著	煮繭論	送料 三・〇〇

堂文明 一町錦區田神市京東 〇九一三一京東 〇九一三一京東 〇九一三一京東  
(呈進第次込申一録目書圖版出)

# 新農藥

國策の線に沿ひて、好評噴々、  
刮目すべき新農藥の偉力を試みよ!!

最新殺菌劑 クロイド (コロイド硫酸銅を主劑とした最新殺菌劑) 包裝 一割度入

新殺菌劑 コクサイド (ルビニ酸アミンを主劑とした最新殺菌劑) 包裝 一割度入

殺菌劑 コルヒチン (植物の染色體を倍加し、新品種を容易に作出し) 包裝 一瓦入

殺菌劑 ヘテロキシシン (果樹の無核果樹木の) 包裝 一瓦入

牛長ホ

ルモン

其他ソイド一號を初め  
新農藥多數!

東京日本橋 三共農藥株式會社



一、家蠶繭絲のセリシヤン固定に關する研究(第四報) 縮及縮處理の物理的性質及新固定方法の實際と理論

野口新太郎教授の中北支、滿洲に於ける蠶絲業及纖維工業視察は已報豫定通り四月十二日出發、十八日上海に上陸以來旅中無事元氣旺盛にて知見を收めつつある由、今月廿日歸校の御豫定であるが土産話を豊富に無事御歸校を待つ次第である。



野口新太郎教授の中北支、滿洲に於ける蠶絲業及纖維工業視察は已報豫定通り四月十二日出發、十八日上海に上陸以來旅中無事元氣旺盛にて知見を收めつつある由、今月廿日歸校の御豫定であるが土産話を豊富に無事御歸校を待つ次第である。

株式會社、纖維工業試驗場、廣瀬製紙株式會社、航空隊、山崎製糖株式會社、東京工業大學、生絲検査所、東京工業大學、全十一日、三原山、十二日歸校、校友會役員決定、昭和十五年度校友會役員は四月廿六日左の如く決定した。

支會事務所移轉、東海千曲會に於ては橋本武光氏が神戸市へ榮轉の結果今回事務所を左の通り移轉せり、愛知縣小牧町大字小牧三〇五、好士泰三氏方

針塚長太郎先生謝恩、針塚長太郎先生(第五回) 記念資金受領報告、現 在 金拾圓也、上田 岩男

本會記事

本會日誌、四月十二日、野口理事中華民國へ出張に付上田際にて見送る、四月三十日、齋藤修一氏名譽の戦死せられし由直に電報を發す

支會事務所移轉、東海千曲會に於ては橋本武光氏が神戸市へ榮轉の結果今回事務所を左の通り移轉せり、愛知縣小牧町大字小牧三〇五、好士泰三氏方

向上資金寄附、本會向上資金中へ左記の通り寄附せらる、海に感謝の至りに堪へず、本紙上を以て受納證に替へ厚く御禮申上る次第

針塚長太郎先生謝恩、針塚長太郎先生(第五回) 記念資金受領報告、現 在 金拾圓也、上田 岩男

内田先生記念品贈呈、資金追加分、金五圓也、上田 岩男

會費領收、昭和十四年度會費金四圓也、水城 孝勇(蠶二)、淺川 茂樹(蠶三)

准會員諸姉二急告、千曲會準會員諸姉は左記に依り準會費御拂込相成度此段紙上を以て御通知申上候

卒業生之部

栃木縣立矢板農學校教諭、猪瀬 親二、公立實業學校教諭=任ス、高等官七等特選、眞岡農學校教諭=補ス

高専官四等特選、依田寛之助、高専官五等特選、玉木 勝彦

高専官六等特選(以上五月一日)、山本 誠、叙從七位(三月三日)、地方農林技師 三好 彌市

公立實業學校教諭從六位、深谷 正一、公立實業學校監督兼任高田農學校舍監=補ス(四月三十日)、公立實業學校教諭 小島 五郎

叙任辭令、現職員之部、上田蠶絲專門學校教授 遠藤保太郎

叙任辭令、上田蠶絲專門學校教授 遠藤保太郎、三級停下賜(以上三月三十日)、與 正巳

叙任辭令、上田蠶絲專門學校教授 遠藤保太郎、三級停下賜(以上三月三十日)、與 正巳

本校辭令

願ニ依り副手ヲ免ス(三月三十一日)、戸塚 直一、天柁實地指導ヲ囑託ス(四月一日)、猪坂 直一

願ニ依り副手ヲ免ス(四月六日)、松田 明文、願ニ依り副手ヲ免ス(四月六日)、前島 正直

願ニ依り副手ヲ免ス(四月六日)、山田 次男、願ニ依り副手ヲ免ス(四月六日)、瀧川 春夫

願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、神林 至、願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、武井仙太郎

願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平、願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平

願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平、願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平

願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平、願ニ依り副手ヲ免ス(四月九日)、小泉 恭平







立木 一千 (紡二) (勤)石川縣大聖寺町八間道八三、石川縣織物検査所大聖寺支所(訂正)

星田 馨 (紡三) (勤)岐阜市、大日本紡績岐阜工場(住)岐阜市五坪町一四四(舊、兵庫支會)

土屋 勉 (紡五) (勤)ナシ(住)長野縣北佐久野村古町、奥屋方

平野 正一 (紡六) (勤)北支田邊部隊

伊藤 剛一 (紡七) (勤)北支田邊部隊

矢野 二男 (紡八) (勤)豊橋陸軍預備士官學校砲兵生徒隊四中队二區隊

近藤 士郎 (紡八) (勤)從前通り(住)大阪市旭區北清水町九〇七、竹之内彌太郎方

飯田 省三 (紡九) (勤)福山市〇〇部隊(留守宅)廣島縣賀茂郡川上村字飯田三八、高須方

川合 久午 (紡九) (勤)臺北市、臺北帝大農業經濟部學生

井上 晴普 (紡九) (勤)岡山市外堀川町、日滿理麻紡績富山工場

山崎 久子 (紡九) (勤)山口改姓(住)前橋市前代田町四三

宮城 久子 (紡三) (勤)東京市杉並區高圓寺、農林省蠶絲試驗場(住)同上

小宮山 順 (紡四) (勤)ナシ(住)兵庫縣佐用郡三日月町

中塚 ミツ子 (紡四) (勤)廣州市中區本町四ノ四三、三菱商事生絲部(住)東京市阿佐ヶ谷區阿佐ヶ谷町

小宮山 かめじ (紡四) (勤)ナシ(住)滿洲國牡丹江省、原井方

山下 とみえ (紡四) (勤)ナシ(住)長野縣小縣郡堀尻村字秋和

山寺 孝 (紡五) (勤)埼玉縣熊谷市、熊谷製絲株式會社(住)同上

柳澤 豊子 (紡五) (勤)兵庫縣佐用郡三日月町、兵庫縣商檢定所三日月支所(住)同上

中條 八千代 (紡五) (勤)ナシ(住)長野縣東筑摩郡岡田村

石川 薫 (紡六) (勤)群馬縣多野郡新町、昭榮製絲新町工場(住)同上

橋詰 美智子 (紡六) (勤)埼玉縣本庄町、昭榮製絲本庄工場(住)同上

西澤 正江 (紡七) (勤)松本市四ツ谷、農林省蠶絲試驗場松本支場(住)同上

山本 コウ (紡七) (勤)埼玉縣熊谷市、埼玉縣商檢定所(住)同上

小山 和子 (紡七) (勤)田村三子

田村 三子 (紡八) (勤)三重縣龜山町、龜山製絲株式會社

御宴會に 御會食に  
**レストラン**  
**香青軒**  
明らかな洋室 落付いた  
和室 (數室)  
上田市袋町 電話13番

御來田のお土産は……  
みすい餡 上のフルーツ  
晒水餡 栗羊羹  
香羊羹 黒羊羹  
信濃そば クルミ羊羹  
米煎餅 果物類 雜詰  
上田市松尾町  
**上飯島商店**  
電話(長)二六〇  
(販賣部)三五四

上田 くるみまんぢう  
くくるみ最中  
くるみ羊羹  
御みやげに!  
御贈答品に!  
上田市松尾町  
**鹽川總本家**  
電話二十九番

農業藥品 化粧品  
純良藥品 寫真材料  
三共農業藥品ウズブルン  
東信代理店  
上田市海野町  
合資會社 **河合商會**  
電話(海野町營業部)二七  
(總務部)八一五

信濃路の旅に!  
善光寺詣りに!  
母校訪問の折に!  
清流千曲川畔  
**戸倉温泉**  
千曲會指定旅館  
**笹屋ホテル**  
特長三番・一〇番  
戸倉 一〇三番(別館)  
三三番(別館)  
電話 上田 一七七番  
東京出張所 下谷(83)六六四五番

御入信の節は  
何卒御光來を!  
上山田温泉  
千曲會指定旅館  
**清風園**  
電話(上山田代表)五六番  
上山田 一六番  
戸倉 三六番  
別館電話(上山田)一四番

御静養には  
感じの好い別荘を  
別所温泉  
千曲會指定旅館  
**花屋ホテル**  
電話 三一三番

別所温泉  
千曲會指定旅館  
**柏屋別荘**  
電話 一二番  
茶代廢止

信州戸倉温泉  
**上田館**  
電話 戸倉 二七番

信州上山田温泉  
家庭風呂  
浴室付別荘  
**圓山莊**  
電話(上山田)一〇九番  
戸倉 七五番

轉任御挨拶  
謹啓 時下新緑の候、愈々御清祥に被  
候段奉賀上候。陳者小生儀、熊本縣在勤  
中は公私格別の御懇情を辱うし、在勤  
厚く御禮申上候。今、同不圖、和歌山縣難  
檢定所長兼經濟部農務課勤務を被命、難  
に就ては、今後共不相變の御指導御鞭撻  
を賜り度奉願候。先は乍略儀、御禮を  
以て御挨拶申上度如斯御座候。頓首  
昭和十五年五月 日  
和歌山市加納南島  
三好 彌市

編輯室より  
△：櫻花に飾られた校内も何時しか新緑  
に包まれて落着いた學府の氣分が漲つ  
てゐる。  
△：この頃の猶では當縣は勿論諸縣で大  
分被害があつた様であるが、蒲添産に  
拍車をかけてゐる折柄誠に残念なる災  
害であつた。近くでは藤田方面がひど  
かつたが、母校桑園は軽少と言へる程  
度であつた。  
△：養蠶科では養蠶實習が始まつて、蠶  
室には灯がともり、學生は理論、技術  
の体験と勤勞の生活が續けてゐる。  
△：校友會方面でも新豫算が決定され、  
各部共活潑な練習を開始し、道場に運  
動場、精神と体力と技を練る若人の  
躍動が眼を引く。  
△：現状勢の深刻化に伴つて本時報も次  
第に紙数を減せざるを得ない事になる  
と思ふが、當分十頁を進めたい。然し  
研究、調査記事でも一般論説でも隨筆  
でも結構、深山御投稿を願ひたい。隨筆  
編輯室 小松 忠一郎 博

優良蠶種案内  
◎昭和十五年度春蠶種  
×分離白一號 絲質特優  
×龍華 絲量最多  
×江仙 太並ニ細兩種  
◎優良品種……適地分場  
廣島縣御調郡奥村綾目八七六  
蠶種業 小川 保  
電話市村局十一番(甲)本宅  
電話市村局別使配送料不要